

(案)

安全・安心、快適で美しい

コンパクトシティの形成を目指して

～ 「東北地方の中小都市」のコンパクトシティ ～

提 言 書

平成 19 年 3 月

東北地方コンパクトシティ検討委員会

はじめに

東北地方では、平成8年に設立された「未来都市検討委員会」で未来都市像としてコンパクトシティが提唱され、その後、街なか居住研究会やコンパクトシティ研究会に引き継がれ、コンパクトシティの検討が進められてきたところである。この最初の取り組みから10年を経た今日、人口減少、少子高齢化の進展、経済の低成長などの社会情勢の変化を受け、改めて、東北の地方都市におけるコンパクトシティを考えるべき時期に来ているのではないだろうか。

特に、東北地方の将来人口は2000年からの30年間で120万人が減少すると予測されており、加速的に進む人口減少は地域社会に大きな影響をもたらすことが懸念されている。将来的には、高齢者1人を2人以下の生産年齢人口で支える社会となり、自治体財政はより厳しさを増し、住民負担や行政サービスレベルのあり方までを見直すことが求められる時代が訪れようとしている。

また、行き過ぎた市街地拡大を見直し中心市街地の活性化等を図るため「まちづくり三法」が改正されたところであり、市街地のコンパクト化と賑わいの回復を図るまちづくりが開始された。さらに、先駆的な自治体では、中心市街地活性化事業や都市機能集約によるコンパクトシティの形成を目指したり、郊外に進出する大型店舗の立地を調整する条例を制定するなど、地域独自のまちづくりを進める動きが広まっており、多くの市民の関心を集め始めている。しかし、多くの自治体ではコンパクトシティという概念だけが先行し、必ずしもその具体像は明確ではない状況にある。

人口減少がより一層進む東北地方の中小都市は、周辺町村へ都市的サービスを提供することで地域の生活を支えており、その役割が一層重要になってきている。そのため、これらの自治体で早急にコンパクトシティの考え方を明確にし、今後のまちづくりに導入していくことが望まれる。なお、「安全・安心、快適で美しいコンパクトシティ」を実現するには、計画づくりから実現に至るまでの長期間にわたって、関係する市民と行政等が協働で取り組んでいくことが重要となる。

コンパクトシティの検討にあたっては、都市を形成する多様な観点から検討することが必要であるため、専門性の異なる学識者等で構成する「コンパクトシティ検討委員会」で議論を重ね提言書を取りまとめている。

本提言書は、地方都市におけるコンパクトシティの基本的な考え方や先進的な取り組み事例などを市民の視点でも分かりやすい内容で取りまとめており、これを契機に都市の将来像について多くの市民が議論を開始することを期待している。

東北地方コンパクトシティ検討委員会 委員長

秋田大学名誉教授

清水 浩志郎

東北地方コンパクトシティ検討委員会

委員名簿

(敬称略)

委員長	清水 浩志郎	秋田大学	名誉教授
委員	鈴木 浩	福島大学	教授
	木村 一裕	秋田大学	教授
	山田 晴義	宮城大学	教授
	高嶋 裕一	岩手県立大学	准教授
	山田 篤司	東北地方整備局	企画部長
	森 義一	東北地方整備局	建政部長
	鳥居 欽吾	東北建設協会	専務理事

目 次

序 . 提言の骨子	1
1 . 提言の主旨 (なぜ、「東北地方の中小都市」でコンパクトシティに取り組むのか)	2
(1) 提言の背景	
(2) 提言の対象市町村 (なぜ、「東北地方の中小都市」を対象とするのか)	
2 . 「持続可能な都市」の基本理念	4
3 . 「東北地方の中小都市」のコンパクトシティ	6
(1) 「東北地方の中小都市」のコンパクトシティ像	
(2) 「東北地方の中小都市」のコンパクトシティの目指すべき方向性	
4 . コンパクトシティの実現に向けて	15
(1) コンパクトシティの推進方策	
(2) コンパクトシティの実現方策 (参考事例)	
5 . おわりに	35
 (参 考 資 料)	
参考1 . 都市を取り巻く状況	参 - 1
参考2 . 「東北地方の中小都市」の特性	参 - 5
参考3 . 目抜き通りの再生イメージ	参 - 10
参考4 . 資料出典一覧	参 - 11

